

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2021年7月2日

Retailer are Entering the Mental Health

小売業が取り組み始めているメンタル・ヘルスへのサービス

ワクチン接種終了済の米国民は、6月15日以降は基本的にマスク着用の義務がなくなりました。

この日を境に小売りやサービスに関係する店舗への入店時の必須事項とされていたマスク着用に対する案内文は、“ワクチン未接種のお客様はマスクの着用をお願いします。” に変わりました。

現在、米国でインド由来のデルタ型変異株への感染も多少見受けられますが、必要回数のワクチン接種を済ませた人々の“重篤な症状”は少なく、一人でも多くワクチンの接種を推進しています。

カリフォルニア州のオープンスペースのショッピングモールや公園などでマスクを外している人は増えてきましたが、グロサリーを始めとする小売りの店舗内では7～8割の方々は未だにマスクを着用しております。

対してネバダ州ラスベガスやコロラド州ではグロサリーやサロンなどのサービスの店内において8割以上の方がマスクを外しているそうです。

カリフォルニア州の感染状況はニューヨークを一時期超えて、全米トップの罹患者と死者を記録した過去もあり、州内の人々の間に残る不安は直ぐには拭えない様子です。



昨年のパンデミック以降、感染への恐怖や様々な問題を危惧し、精神面を病んでしまう方もいました。

睡眠障害や頭痛を訴える方も増加し、十分な休息をとれないことが免疫の低下へ繋がり、抵抗力が弱くなり、感染に対し脆弱になる悪循環も起こりました。

直近の英国オックスフォード大学の研究チームの調査で、新型コロナウイルスに感染した人々の後遺症の1つとして3割以上の方々に何らかの精神的な疾患を発症することが発表されており、最も多いケースは不安障害で次にうつ病などの障害だったそうです。

特に "long-haulers" と呼ばれる長期的に続く後遺症の一種でメンタルの不調は更に深刻 と言われています。

この状況で今年度の全米で1万店舗近くを展開するドラッグストアチェーンのCVS や Walgreens、Rite Aid、そして大手スーパーマーケットチェーン店内で手軽に相談可能なメンタル・ヘルスのサービスの導入、展開が始まっています。



このニュースは多くのメディアも連日取り上げており、ニューヨーク・タイムズ誌からの記事をその一例としてご紹介致します :

2020年に米国民は肉体的・精神的そして経済的に大きな打撃を被りました。誰もが新型コロナウイルスのパンデミックを想像しておらず、結果的に想像を超えた形で私たちの肉体と精神が試されました。そして今はワクチンの普及により米国全体の患者は激減し、次のフレーズに入ろうとしています。それはパンデミックの影響によって精神的に影響を受けた人々のメンタルに対処するという段階です。

疾病管理予防センターCDCによると、米国で不安やうつ病の症状を抱える数は一昨年前に比べて2020年は4倍に増えました。しかし適切な心理セラピストの診断や治療を受ける為に何回も電話やメールをしたり、順番待ちリストに何とか入れてもらったり、または主治医の紹介や健康保険がカバーしない場合もあるなどの煩わしさもあり、面倒で時間が掛かるプロセスになっており、色々とストレスを生じる事もあります。

シャンプーボトルを求めてドラッグストアに足を運んだ時やスーパーマーケットで朝食のシリアルを購入するついでに、メンタルヘルス治療のためのウォークインセッションが出来るオプションがあればどうでしょうか？

現在、多くの小売業者がメンタルヘルスケアを必要とする人々へのカウンセリング提供に取り組み始めています。

メンタルヘルスのサービスをスタートした小売業企業のリストは次のとおりです

CVS :

ドラッグストアチェーンのCVSは2021年1月以降、フロリダ、ペンシルベニア、テキサス州で認知行動療法専門の臨床ソーシャルワーカーを追加し、同時にメンタルヘルスのカウンセリング（店内、またはオンラインで行うことが出来る）の提供も含んでいます。5月にはテキサス州スプリング市を皮切りにメンタルヘルス専門のカウンセリングサービスも始まり、今年は全米34箇所に拡大する予定です。利用に関しては、店内に併用のクリニカルサービスMinuteClinics（ミニッツ・クリニック）で待機するソーシャルワーカーが日中、夕方、週末で対応を行います。緊急でない場合の医療サービスを提供し、ほとんどの主要な健康保険会社を使用可能で、薬や処方箋が必要な場合はソーシャルワーカーがMinuteClinicのナースプラクティショナーや薬剤師と協力し処理致します。無保険の方でも初回診察料の\$69~\$129の範囲での支払いで利用できます。



Walgreens :

Walgreens Find Care では、電話またはビデオを通して認定医療セラピストや心理カウンセラーに相談が可能です。サービス内容は、うつ病、悲しみや不安など幅広いメンタルヘルスの問題をカバーしています。料金は保険の適用範囲によって異なります。また Walgreens は Mental Health America と提携し、オンラインのメンタルヘルスのスクリーニングテストも提供しています。



Rite Aid :

Rite-Aid のスポークスマンによると、アイダホ、ニューハンプシャー、ペンシルベニア、バージニア州にある一部の店舗で「バーチャルケアルーム」というメンタルヘルスの遠隔治療を開始する予定です。同社のプログラム開始時期や拡張計画の予定は現在まだ決定していません。



Walmart :

最近 Walmart は、医療とメンタルヘルスケアの両方を提供する遠隔医療プロバイダー MeMD を買収し、不安、うつ病、ストレスに資格のある専門の医療従事者からカウンセリングサービスを受けることができます。同社はジョージア州で対面でのメンタルヘルスカウンセリングを提供、アーカンソー州では遠隔治療を利用できます。今後数か月以内にメンタルヘルスサービスをイリノイとフロリダ州でも提供を開始する予定で無保険でも最初の治療セッションの費は 60 ドル、45 分のフォローアップセッションは 45 ドルです。



Albertsons and Safeway :

米国最大の食品および処方箋を取り扱う小売業者の 1 つである Albertsons & Safeway は、2020 年 12 月からペンシルベニア州で展開する同社傘下の ACME スーパーの薬局で遺伝子検査を通じ、パーソナライズされたメンタルヘルスケアとウェルネスに取り組むデジタルサービス企業 Genomind's (ジェノマインド社) のメンタルヘルス・テストを展開することを発表しました。保険が治療をカバーできない場合や無保険であっても Albertsons が 10 年近く関係を共にしている同社が治療にかかる資金提供の手助けをし、メーカーのリベートプログラムまたは非営利財団等、安心して治療を行えます。



感染による後遺症で心を病む人だけでなく、新型コロナウイルスによって大切な家族や愛する人の命を奪われてしまった人や沢山の死を目にした医療従事者の間でも深刻なうつ病の症状を発症している。と言われており、それは欧米に限らず日本でも同様です。

米国人はオープンマインドで、精神科を訪れることを恥ずかしく思う人は少ないと思われがちですが、全く抵抗がないかと言うと実際はそうではありません。

身体と違い心の傷は目には見えにくく、放っておくと取り返しのつかない状態に陥ることもあります。

ドラッグストアやスーパーマーケットに行ったついでに手軽に精神的な不安を相談出来る場所があれば、本人や周囲も心の SOS に早く気付くことができ、後々人命を守る事にも繋がります。

全米の小売業が率先して始めたメンタルヘルスへの取り組みは、社会的にも本当に良い傾向であると思います。